

無線博士の三大陸漂流記

中村 康久(NTTドコモ)

工学博士。NTTドコモで米国、フランス、ブラジルの
オフィス駐在を経験し、現在はITS推進室室長。

[第4回]

シアトル編 ～この雲も僕の故郷から来たのかな～

イラスト：西井美保

ICHIROのいるシアトルマリナーズで有名なシアトルは、年間の半分以上は雨が降る森と湖の町である。その鬱蒼とした独特の気候のせいか昔から映画の舞台になることも多く、最近では日本で大ヒットしたホラー映画リングのハリウッドリメイク版の舞台となっている。あのビル・ゲイツ氏も、シアトルでなく気候温暖で年中青い空のカリフォルニアに生まれていれば、違った人生を歩んでいたかもしれない。



た宿題の内容や締切日もWEB上で確認できるので大変便利である。小学生も高学年ともなれば当然のように、WEBを調べてPCでレポートをかかせる宿題が出される。(おかげで、宿題はもっぱらお父さんの力作となる)

こうして小学生から日常的にPCに接する環境の下、第2のビルゲイツ予備軍が続々と育っているのである。

子供達によると、日本とアメリカの学校

教育の大きな違いは2つある。1つは先生や親が生徒をやたらよく褒めること、もう1つは教室内で外国人生徒に対する差別が全く無いことだ。そもそも人種の垣塙だから外国人だからといって差別しても意味が無いのだろう。一方、差別が無いことは、子供達にとってつらいこともあったようだ。つまり英語が出来ようが出来まいが、どこの国籍であろうが先生は全く配慮しないでどんどん授業を進めるのである。渡米時には全く英語を話せなかった息子が、入学一年後になんとか小学校の英語劇でのせりふ回しを無事終えたときは、親もほっとしたものである。

さて副題の川柳は、シアトル滞在当時、中学2年の長男が日本語補習校の授業で作った川柳の1つである。シアトルへは、私の業務の関係でブラジルのリオデジャネイロ(リオ)から直接家族で異動したため、そろそろ帰国できると内心感じていた子供達にとっては、相当望郷の念が強かったに違いない。今回は子供達の目を通して見た異文化の学校環境や教育の違いについて書いてみたい。

アメリカの公立学校はまさにアメリカ社会の縮図、ごった煮のスープのような異人種の垣塙である。近年のシアトルでは日本人の子どもが減り、逆に存在感を増しているのは韓国系のような。

シアトルは地場のIT産業が発達しているので、学校教育も当然PCやインターネット利用が前提である。高校の授業ではパワーポイントによるプレゼン発表が普通に行われ、図書館には整然とPCが並んでいる。以前ご紹介したマイクロソフト社も地域の学校に多大な寄付をしていると聞く。また、各学校は専用のWEBサイトを持ち、その日の宿題もクラス単位で全てWEB上で公開される。生徒達(親も)にとっては、授業で聞きそこなっ

た宿題の内容や締切日もWEB上で確認できるので大変便利である。小学生も高学年ともなれば当然のように、WEBを調べてPCでレポートをかかせる宿題が出される。(おかげで、宿題はもっぱらお父さんの力作となる)

こうして小学生から日常的にPCに接する環境の下、第2のビルゲイツ予備軍が続々と育っているのである。

子供達によると、日本とアメリカの学校教育の大きな違いは2つある。1つは先生や親が生徒をやたらよく褒めること、もう1つは教室内で外国人生徒に対する差別が全く無いことだ。そもそも人種の垣塙だから外国人だからといって差別しても意味が無いのだろう。一方、差別が無いことは、子供達にとってつらいこともあったようだ。つまり英語が出来ようが出来まいが、どこの国籍であろうが先生は全く配慮しないでどんどん授業を進めるのである。渡米時には全く英語を話せなかった息子が、入学一年後になんとか小学校の英語劇でのせりふ回しを無事終えたときは、親もほっとしたものである。

米国は人種の垣塙の学校生活であるが、よく見るとやはりアジア系の子供達は一緒に遊ぶことが多い。特に韓国人と日本人の子供達は本当に仲がいい。言葉こそ違いますが、人種的にも体型的にも似ているからだろうか、放課後は大体一緒にバスケットやサッカーをして遊んでいる。親同士も結構仲がいい。教育熱心な点は共通なため、学校が主催する父兄会に参加するのは日本人と韓国人の親だけという事態もしばしば発生する。

異国に住む子供達の世界では、日韓の子供たちは互いに親近感が高いのだ。それが政府や大人になると、どうして素直に出来なくなるのか理解に苦しむところだ。一層のこと、日本人も韓国人も言葉の通じない外国で一緒に生活したらいい。世界の中でどれだけお互いの存在が大切か、すぐに分かると思う。今の両国の摩擦は一挙に解決するかもしれない。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp